

## 第11回つくばリサイタルシリーズ報告書

## 2台ピアノで奏でるオーケストラ ～名曲を旅する～

## 1. つくばリサイタルシリーズ実行委員会について

つくばリサイタルシリーズ実行委員会は、つくば市においてプロの演奏家を招聘し、クラシックコンサートをプロデュースする筑波大学の学生団体である。つくばの学生および市民が経済的に大きな負担を伴わず、本物のクラシック音楽に触れる機会を提供することを目的としており、2021年で10周年を迎えた。通常プロの演奏を聴くためには、高額なチケットを購入する必要があるが、会場が東京などの大都市に限られていたりするため、クラシックに対して親しみにくい印象を抱く人も多い。その意識を変えるため、つくば市民にとって身近な場所で、手頃な価格でクラシックを楽しめることを目指した本シリーズの基本方針は、例年のアンケート結果を通じて来場された皆様からも高い評価を受けている。企業協賛やクラウドファンディングといった手段により資金を確保し、可能な限り低価格かつ高品質な演奏会を実現できている。

## 2. 事業の概要

事業名：第11回つくばリサイタルシリーズ  
2台ピアノで奏でるオーケストラ ～名曲を旅する～

実施日：つくばカピオ ホール

価格：一般1,000円 学生無料(要申込)

出演：中井恒仁&武田美和子 ピアノデュオ

曲目：J.シュトラウス二世 ワルツ「美しく青きドナウ」

スメタナ モルダウ～交響詩「我が祖国」より

サン＝サーンス 組曲「動物の謝肉祭」

江藤光紀 Imaginary Journeys for Two Pianos

ベートーヴェン 「歓喜の歌」(交響曲第9番第4楽章)

### 3. 当日の様子



受付



客席



連弾



2台ピアノ



集合写真

## 4. 活動の達成度

### 4-1. 準備とチケット販売について

今回は、前回までと同様全席指定の対応をとったが、客席は100%開放してチケットを販売した。自治体やホールによる規制も緩和されたため、より多くの方に聞いていただくことを重視した。第9回・第10回に続き、コロナ禍での開催は3回目となった今回は、新たにオンラインのチケットシステム「teket」を導入し、委員の負担軽減と業務の効率化を図った。このサービスでは、席の指定も購入者自身で行うことができるほか、これまで振込のみだった決済手段が、クレジットカード・コンビニでも可能となったため、お客様にとっても使いやすい方法となっている。受付もQRコードの読み取りのみで完了するため、当日の受付スピードも向上した。384席のうち、teketとホール販売、郵送販売合わせて293席、クラウドファンディング・招待合わせて50席と、合計343席分販売した。当日のキャンセル

が重なり、実際の来場者数は 280 人であった。

感染症対策については、昨年のをベースに他音楽団体の案内等も参考に加筆し、周知を徹底した。また当日は、会場入り口付近にお客様への案内の張り紙を用意し、事前に必要なものを準備できるよう呼びかけた。前回と比較して 1 名にかかる受付時間も短縮されており、今後も継続していきたい。

次回からも引き続き、teket を利用してのチケット販売を行う予定である。一方で、学生券を teket のみにする場合、使い方がわからない、インターネット環境がない等の声をいただいたため、その場合の対応について明確する必要がある。

#### 4-2. 広報活動

前回まで、チラシやポスターを捌くことが困難であったことを受け、学内や市役所関連施設、近隣学校の他、つくば市以外の県内の自治体(土浦市、常総市など)のコミュニティセンターや、ピアノ教室にもチラシを配布した。広報のメンバーだけでなく全体で協力を募り、エリアごとに手分けして行ったため、比較的労力も少なく済ませることができた。

また、ブログや SNS での発信も引き続き力を入れた。Twitter、Instagram、Facebook の特性や利用年齢層を考慮し、それぞれにふさわしい形にしてアップすることを心がけた。Instagram は今回から本格利用に至ったため、フォロワー獲得が優先課題であった。フォロワーは約 40 人増となり、微増ではあるが、学生を中心につながりを増やしていきたいと考えている。動画が特にアクセスが良いことから、紹介動画や曲紹介動画をいくつか作成し、曲の魅力が伝わるようにした。今回は、楽器がピアノであること、有名でなじみ深い曲が多かったことから、集客に関してプラスにはたらいたと言える。

今後の課題としては、SNS の効果的な活用と、そもそもクラシックに馴染みのない潜在層へのリーチが挙げられる。SNS は、対象となる年代や、それぞれに相性の良いコンテンツを考慮することに加え、ある程度の頻度で更新することで、興味のある層へ届かせることができる。しかし、SNS でリーチできるのは、興味があって調べた人が中心である。そもそもこのコンサート自体をより広く広報し、少しでも興味を持ってもらえる人を増やすという観点から、地域のインフルエンサーに広報を依頼するなど、より広域なアピールが必要である。

#### 4-3. 予算・運営面

今回は客席を 100%開放したため、一般チケット¥1,000×111 枚(teket94 枚、紙チケット 17 枚)の売り上げがあった。併せてクラウドファンディングも行い、目標額 10 万円を上回る、過去最高額の 137,000 万円の寄付をいただくことができた。以前から継続して応援してくださる人や、今回初めて会を知って寄付してくださった方など、徐々に認知度が高まった結果であると考えている。

アイラブつくばまちづくり支援事業にも2度目の採択となり、約13万円の支援を受けている。しかし、アイラブつくばへの申請は3回が限度であり、次が最後となるため、その他の資金源を確保する必要がある。

その一つとして、今後は大学近隣の店舗や企業の広告の充実を図りたい。少額から掲載できる広告欄を設け、近隣飲食店等にアプローチをかけることができる。広告掲載が難しくとも、チラシの掲載に協力してもらうなどすることで、学生を中心に広報活動を行うことができる。

また今回の課題として、車椅子席の販売が挙げられる。録画のため車椅子席のスペースを取っているが、車椅子席ご希望のお客様との間で初期対応に問題がありトラブルとなった。車椅子席2席のうち1席を使っていたこととなったが、次回からは車椅子席の販売について明確に情報を提示しておく必要がある。販売しないという姿勢は世間的にも認められない姿勢であると考え、録画スペースの移動を含め柔軟な対応をしていくべきである。

また、2時間座ってられない小学生への席の販売についても課題となった。未就学児は入場不可としているが、小学生に関しては個人差も大きい。学生チケットを値上げすることもひとつの手段だが、活動の趣旨からそれは避けたい。こちらへの対応も今後の課題となる。

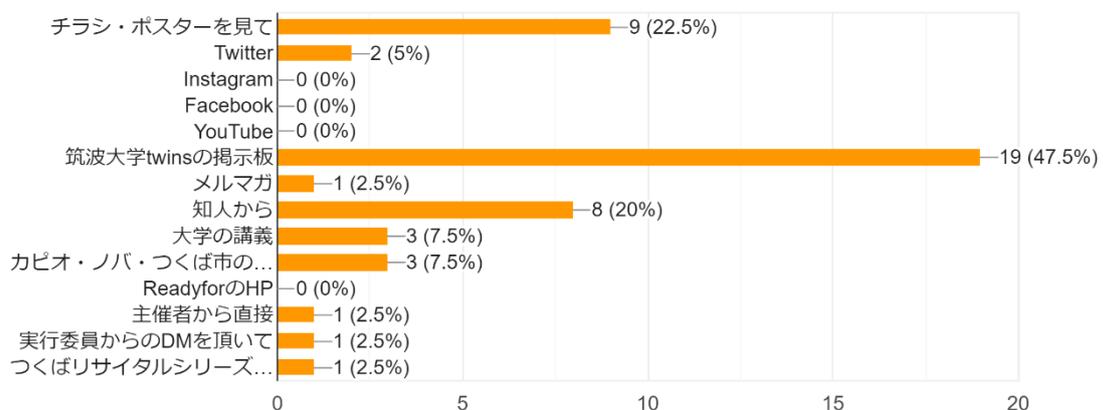
#### 4-4. アンケートからの分析

大学生が中心であるため、大学掲示板や知人からの紹介がメインとなっている。チラシ・ポスターにも一定の効果があるため、今回チラシ配布範囲を広げた点は有効だろう。

##### Q1. 今回の演奏会をどのように知りましたか。(複数回答可)

※「その他」の方は、具体的な媒体を回答いただけますと幸いです。

40件の回答



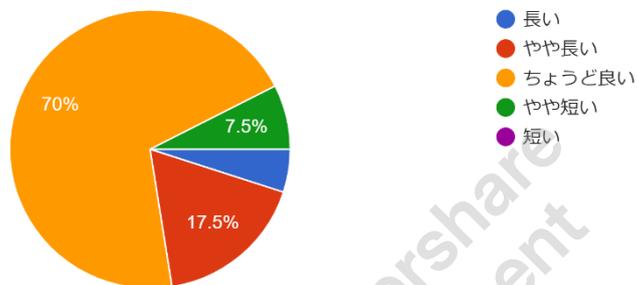
演奏会の長さは、ほとんどの来場者がちょうど良いと答えているが、約20%「長い」「やや長い」の回答があった。今回は楽曲の都合上2時間を多少超え、終演が例年より延びてし

まったため、やや長い感じた人が一定数いただろうと考えられる。

進行についても概ね問題なく、アナウンスや誘導も問題なく行えたものと思われる。全体的な満足度も「満足」「やや満足」と答えた方が97%を超え、好評をいただいた。今回は楽曲が親しみやすい曲で、多くの人に馴染みのあるピアノであったため、聴きやすいコンサートであったと考えられる。知っている曲が入っているとより楽しめる、という声をいただくことも多いため、その結果が現れたと言える。

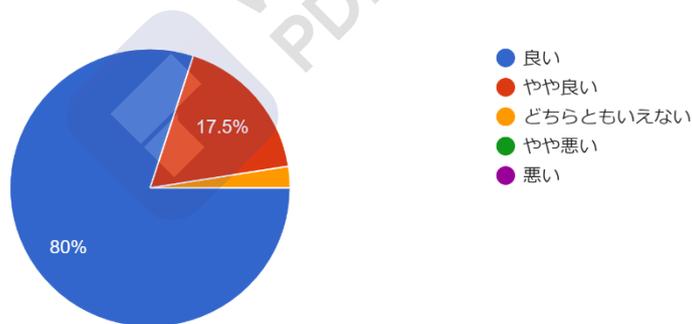
### Q3-1.演奏会の長さはいかがでしたか。

40件の回答



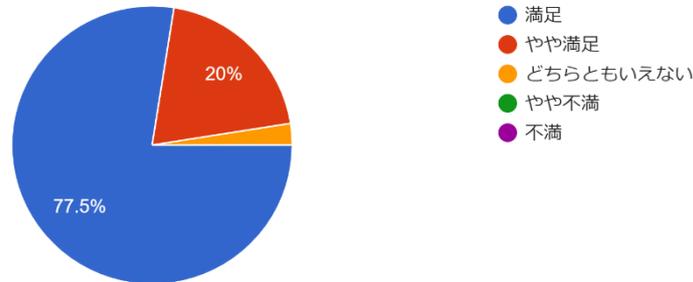
### Q3-2.演奏会の進行はいかがでしたか。

40件の回答



Q4.演奏会の全体的な満足度をお教えてください。

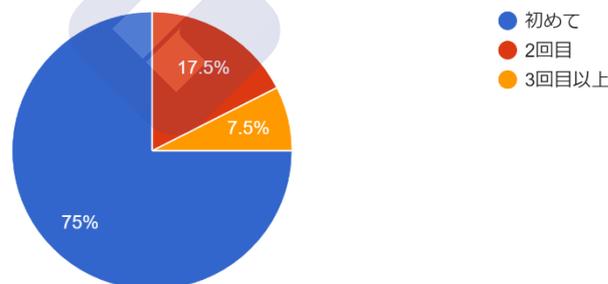
40件の回答



また、今回のアンケートでは、来場回数についての設問を作った。10周年を迎え、徐々に認知度も上がり、リピーターも増えつつある。一方で前回では、約30%が複数回来場しているお客様であったが、今回は比較的初めての方の回答が多い。学生は毎年入れ替わるため、初めて来る人も大勢見込める。今後も来場したいと思えるような演奏会づくりを目指していきたい。

これまでつくばリサイタルシリーズにご来場されたことはありますか。

40件の回答



#### 4-5. 運営体制

今回のコンサートから参加の委員が多かったが、3年生を中心としながら1、2年生も様々な仕事を任せた。広報・渉外・会計・運営の4部署に分かれ、それぞれ協力しながら活動を行い、週一回のミーティングで共有する形をとった。4回のコンサートを経験した3年生が今回で幹部引退となるため、引き継ぎを着実にいった上で、1、2年生中心の運営につなげていきたい。

## 5. 総評

今回は2年ぶりの客席100%開放、チケットシステムの導入、新メンバーの増加と、新しく取り組むことも多かったが、協力して取り組むことができた。準備段階から今後の課題点も多く見つかったため、検討を重ねながらより良いコンサートを目指していきたい。ゆくゆくは、つくばの恒例行事として、地域の音楽文化振興に貢献できる活動になればと考えている。

